

水環境保全プロジェクト

不法投棄監視人の
長澤猛さん(大坂)から
お話を伺いました。

「不法投棄監視人になったのは旧千畑町の時代からなので、もう20年以上になるでしょうか。以前から山菜採りが好きで山に入る機会が多かったのですが、監視人になってからは毎日のように山に入るようになりました。83歳になった現在も『ごみ散らかっているんじゃないか』と心配になって朝夕2時間くらいパトロールをしています。

町には8人の不法投棄監視人がいますが、私がパトロールを担当している地域は浪花地区から善知鳥地区周辺の山間部です。普段は人が立ち入らないような林道沿いや沢に、家電やタイヤ、ガスボンベなどさまざまなものが捨てられています。雑誌や空き缶・空きびんなどの家庭ごみを見つけたことも多く、これらは肥料袋や買い物袋に入れて投棄されています。周りの目を気にしながらも、手間をかけてごみを山中に捨てる人の気持ちは分かりませんが、



■長澤 猛さん



■土崎北部集積所(写真左)と、みずほの里ロード沿い(千畑地区)(写真右)で不法投棄が発見されました。

投棄された現場を見ると悲しい気持ちになります。

大坂地区では、以前から道路や河川の美化活動に地域を挙げて取り組んできました。6月、7月には赤倉川の清掃を予定しています。監視人としての活動のほかに、集落のみんなと一緒に環境保全に取り組んでいるからこそ、地域をごみで汚されるのは我慢できません。

昔は『水の一滴は血の一滴』といわれ、田んぼに水を引くために親類同士でさえ言い争いが起こりました。それほど水が貴重な時代だったのです。もちろん、今も水が大切なものであることには変わりはありません。しかし、私が幼いころと比べると社会の環境はだいぶ変化しまし

た。生活が豊かになるにつれて、環境汚染が問題化するようになりまし

た。投棄されたごみは、地下水や土壌にも悪い影響を及ぼします。監視人としての活動を通じて不法投棄を減らすことは、貴重な水資源を守ることに繋がると考えています。

十年一昔という言葉のとおり、この先10年でさまざまな変化が起こることでしょう。美郷町の美しい自然を子どもたちに引き継ぐために、私たち大人は水環境を守り、その大切さを子どもたちに伝えていかなければならないと思います。これからは美郷町が『美しく誇れる町』であるため、みんなで心がけていきたいものです。」

美郷町では町の財産である“水資源”を守り、次代に引き継いでいくため、さまざまな取り組みを行っています。今月は水環境保全プロジェクトに関する取り組みとイベントをご紹介します。

■清水川(仙南地区天神堂)今年度、遊歩道の整備が予定されています。

水環境保全プロジェクト

美郷町総合計画「後期基本計画」では、将来の美郷町のために特に力を入れる施策を「まちづくり戦略プロジェクト」と位置づけています。その一つである「水環境保全プロジェクト」は、美郷町の清浄な水環境を大切にすることを喚起するとともに、町民共有の貴重な財産として保全し、次代に引き継ぐことを目指しています。

不法投棄の防止と早期発見に取り組みます

不法投棄監視人によるパトロールのほか、不法投棄防止を呼びかける看板を設置して生活環境の保全を図ります。

**みんなで不法投棄を防ごう!
私たちがパトロールをしています**



■不法投棄監視人の皆さん



不法投棄を発見したら
住民生活課環境安全班にご連絡を!
☎0187(84)4903

自転車やタイヤが捨てられていました 水環境クリーンアップ作戦

4月24日に千畑地区を流れる丸子川で清掃活動が行われ、町内外から約150人のボランティアが参加しました。

参加者は大畑橋から下川原橋までの約3Kmを3班に分かれて清掃。雨が降る中、川沿いに散乱する空き缶やペットボトルなどを拾い集めたほか、川岸のごみを棒で手繰り寄せ取り除きました。作業は2時間ほどで終了し、家庭ごみのほか、自転車やタイヤなど約2tのごみを回収しました。

また、作業終了後には水環境マイスターの佐々木哲雄さん(土崎)が講演を行い、参加者に「水のまち美郷町として、みんなで水を守っていきましょう」と力強く呼びかけました。

不法投棄は廃棄物処理に関する法律や河川法などにより罰せられます。